



湘南校舎における産業医活動（面接）の変化についての検討

灰田宗孝（スポーツ医科学研究所 特任教授）

A Study on Changes in Industrial Physician Activities (Interviews) at the Shonan School Campus

Munetaka HAIDA



要旨

2010年度から2022年度までの湘南校舎の産業医面接の動向を提示し、湘南校舎における面接活動の変遷について検討した。その結果、面接対象がより多面化し、疾患の治療中に職務をこなす人たちが増え、その支援が増加したこと、メンタルに問題のある人は長く面接を続ける傾向にあることなどが見られる。また2021年、2022年度は過重労働が異常に多かったと言える。

(Tokai J. Sports Med. Sci. No. 35, 33-36, 2023)

I. はじめに

2008年から湘南校舎の産業医を担当したが、当初は産業医としての活動は不十分であり、職場巡視は殆ど行われず、安全衛生委員会も年に数回、産業医面接も年に数人といった状況であったが、2010年頃より安全衛生委員会、職場巡視は毎月、産業医面接も数十人となり、以後量質ともに充実していった。その後の面接人数等の詳細な記録があり、2022年度より、私がスポーツ医科学研究所の所属になり、湘南校舎の産業医を行う事となった事から、面接記録に基づく検討をスポーツ医科学雑誌に報告する。

II. 面接記録

図1に2010年から2022年までの面接人数の変化を示す。

面接人数は、2010年の75名から徐々に増加し、2016年にかけて150名で頭打ちになる様に見えるが、2017年、2018年と増加に転じ、2019年で再び230名程度で頭打ちになる傾向を示したがその後2020年、2021年と増加に転じている。2022年度はまだ年度途中ではあるが、2021年より、下回ることは明らかと思われる。

表1に上記面接人数の内訳を示す。

表1から判ることは、新規面接者数が2017年までは30から40名で安定して居たが、2018年に大幅に増加していること。面接理由のその他が2018年から大幅に増加していること、身体的理由は2017

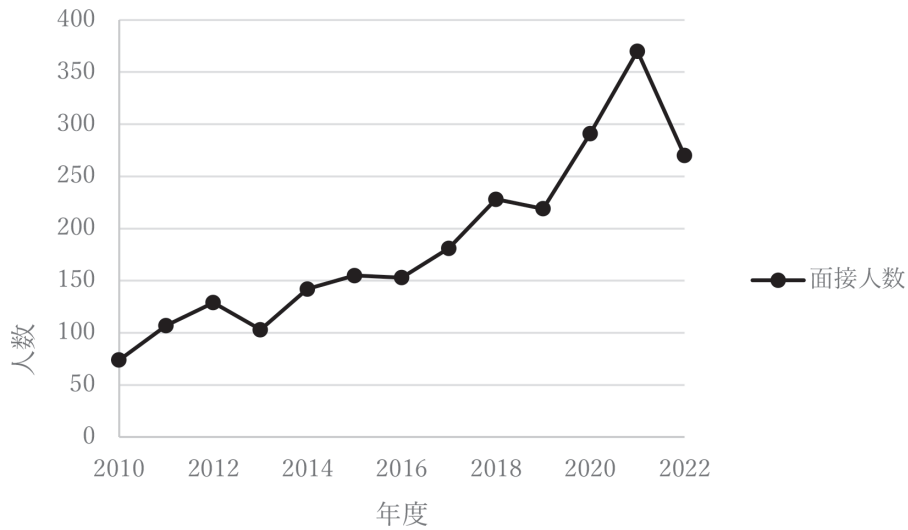


図1 2010年から2022年の面接者の人数を示す。2014-2016年で一度水平になりかけたが、2017年、に増加に転じ、2018年、2019年で水平に、しかし2020年、2021年で再び大幅に増加し、2022年度は若干低下傾向にある。

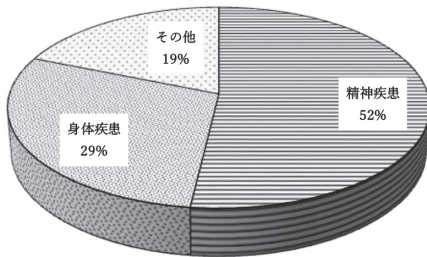
Fig. 1 shows the number of interviewees from 2010 to 2022. It almost leveled off in 2014-2016, but increased again in 2017. In 2018 and 2019, it will level off, but it will increase significantly again in 2020 and 2021, and will slightly decrease in 2022. It is on a downward trend.

表1 2010年から2022年までの面接の内訳を示す。癌の治療中の項目は2017年から追加した。

Table 1 shows the breakdown of interviews from 2010 to 2022. Items on cancer treatment were added from 2017.

年度	面接人数	面接理由				新規面接			
		精神的	身体的	その他	悪性腫瘍	面接人数	精神的	身体的	その他
2010	74	60	4	6		25	16	3	6
2011	107	55	31	20		40	7	18	15
2012	129	62	50	17		40	3	20	17
2013	103	36	48	19		32	5	10	17
2014	142	90	42	10		30	5	16	9
2015	155	87	61	7		29	3	19	7
2016	153	90	50	13		41	15	13	13
2017	181	86	73	22	37	47	8	15	23
2018	228	93	98	37	53	71	13	21	37
2019	219	94	75	50	34	65	6	9	50
2020	291	104	88	99	42	84	9	9	66
2021	370	132	78	160	47	128	35	17	76
2022	270	112	79	79	37	71	2	6	63

利用者延べ人数(n=106)



新規利用者実人数(n=40)

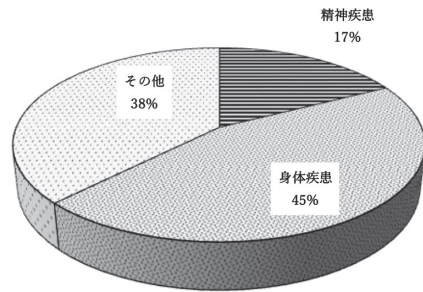
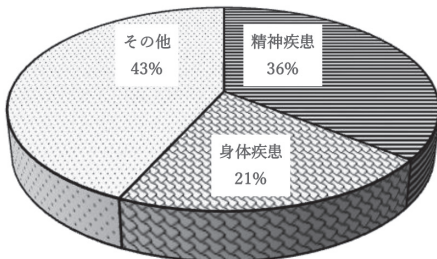


図2 2011年度の面接者の内訳2011年での、のべ面接者の過半数は精神疾患であったが、新規面接者では精神疾患は17%しかなかったことが判る。

Fig. 2 shows the breakdown of interviewees in 2011. In 2011, the majority of interviewees had mental illness, but new interviewers were only 17%.

利用者延べ人数 (n=370)



新規利用者128名

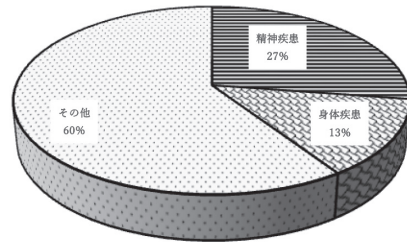


図3 2021年度の面接者内訳2021年度ののべ面接者数は精神疾患、身体疾患、その他でほぼ1/3ずつとなっているが、新規利用者ではその他が60%近くを占めていることが判る。

Fig. 3 shows the breakdown of interviewees in 2021. The total number of interviewees in 2021 is about 1/3 each for mental illness, physical illness, and others.

It can be seen that other users account for nearly 60% of new users.

年頃から若干増加していること、精神的理由は2014年から2019年まではほぼ90名程度で安定していたが2021年、2022年と増加していることが判る。

図2に2011年の面接者の内訳、図3に2021年度の面接者の内訳を示す。

図2、及び図3より、2011年と2021年の面接者の構成が大きく異なることがわかる。2011年度では通算の面接回数では、精神疾患は過半数を占めているが、新規面接者では、精神疾患は17%しかなく、身体疾患とその他で半々である。つまり精神疾患の面接は通年で頻回に行なわれていることがわかる。その他には、継続雇用、過重労働（残業81時間超）などが含まれている。一方2021年度では通年の面接者は精神疾患、身体疾患、その他でほぼ1/3ずつとなっているが、新規面接者で

はその他が60%と圧倒的に多い。つまり2021年度ではその他、特に過重労働（残業81時間超）が異常に多かったことがわかる。

Ⅲ. 考察

- ・ 2016年で150名程度に収束しそうであった面接者の人数が2017年から増加に転じたのは、癌等の疾患の治療中で就労している方が増加したことが要因と思われる。表1から、このような人たちは40名程度存在するといえるが、そのみの増加は認められない。

- ・ 2021年、2022年の増加は大学の組織改革が行われたこと、コロナ感染症の影響で行動制限が加わ

り、就労形態に変化がもたらされた事が挙げられる。新しい組織変革の中で、過重労働を強いられるものが多かったと推察される。それは、新規面接者に占める過重労働（残業81時間超）が2022年度で、60%と非常に高かったことから、推察される。

・これらの問題は2022年度には改善傾向にあるといえる。

以上、産業医面接者数の推移より検討した結果を報告した。